

第2回 井原市就学前教育・保育施設のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和6年12月24日（火）14：00～
場 所 井原市役所4階 大会議室

出席者：委員 11名
事務局 7名
アンケート委託業者（オンライン）3名

1 開 会

委員長：未来の数年先の子どもたちの教育環境を整えるために今日は頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

2 審 議

（1）保護者アンケートの内容について

委員長：前回様々な意見をいただきありがとうございました。前回の意見を思い出す意味も含めて副委員長から。

副委員長：委員から宿題をいただいた気がしながら帰りました。幼稚園と保育園の違いがどこにあるのか、考えた。今は幼保の垣根はない。昔は管轄が別だった。国の一元化の方針としてできたのが認定こども園。管轄は、内閣府になった。2023年にできた子ども真ん中政策の中でできた子ども家庭庁。保育所保育指針、幼稚園教育要領、こども園教育要領の中身は全く同じになっている。幼保とも子どものために向かう方向は同じ。幼保関係なく、子どもたちの幸せのために向かっていければ。子育て支援課から、今後の動向を受け、保育園は安定している。幼稚園は危機状況にあると聞いている。そういう意味では、幼稚園をどうするかというところを考えていく必要があると汲み取った。

委員長：今のことに関して、思っていることがあれば。では、アンケートを進めながら、忌憚ない意見をいただきたいと思います。

<アンケートの主旨について>

委員長：アンケートの趣旨について事務局から。

事務局：説明

委員長：質問、意見があれば。

委員：今の①～⑤はこういうものを知りたいということを伺った。最終的に集計して、この委員会が設置されたところが、どこが知りたいのかを把握しないと、ピンとこない。これを聞いてどこに行きたいのかがわからない。最終的に何が知りたくて、どこに行きたいのか。

事務局：主旨としては保護者のニーズを図ること。保護者がどういうところに重きをおいているのかまだわからないので、分析をもって表面化されるのではないかと考えている。

委員：分析をもって何を知りたいのかというところがあるのでは。どういうところが重点的に知りたいのか。それが分からないと聞きようがない。

事務局：園が小規模化し、集団での効果的な教育保育ができにくいというところが前提としてある。それを保護者に分かってもらったうえで質問をしたい。

委員：先ほどの委員の意見に似ていると思うが、保護者ニーズを把握することは必要。でも、オチがわからない。井原市の方向性が分からないまま検討に入るのは。幼稚園

に入る子を増やしていこう、なのか、集団としては厳しいからそこは無くしていこうなのか。集団としての保育ができないというところもあるが、小規模だから個のニーズを活かした保育もできる。

事務局：本市の考えとしては、小規模化による課題が出ている。現在の13園を当面継続していくことは難しいだろう。しかし、アンケートを進めていく中で、保護者のいろんな意見が出てくるだろう。極端な話、保護者みんなが地元の園がなくなったら100パーセント行かないということがあれば、地元の園を減らすというところは、また話が変わってくる。落としどころを作るという意味で保護者の回答によって変わってくる面もある。市の方向性というのはあくまでこのアンケートを基にした、皆さんの委員の方に考えていただいた答申をもとに市の方向性を決めていくということになるので現時点で市の方向性としてはっきりしたものは出していない。ただ、唯一言えるのが、今ある13園を今後維持していくということは難しいのではなかろうかというふうに考えているところ。

委員：学区がなくなった場合という話が出た。2019年には、現行を維持していくという話が出た。小学校の学区制とともに検討していく必要がある、と書いてある。1学区に幼稚園があることがめずらしい。小学校の学区制と含めて考えると書いてあるのに、幼稚園だけを考えていくのがどうなのかというところが気になる。

事務局：就園率の低下が著しかったというのがある。小学校区と一緒に考えていくということに無理が出てきた。ただ、そういったところも委員の皆さんから意見をいただくこともあるのかと思う。

委員：井原市の1学区1幼稚園制は、県内でも貴重なところだと思う。アンケートで、認定こども園の言葉が出てきていた。国は認定こども園を増やすことを方向性として示している。もし認定こども園がいいという意見があれば、それもあるのか。

事務局：はい。答申にいられていただければ。

委員長：集団保育が困難であるという課題、現状を含め、全数アンケートで意見を聞いて、答申を作っていくということが前提ということでまとめます。

委員長：アンケートの内容についてみていきたいと思います。

事務局：アンケートは、1から2ページになる。（読む）

委員長：①について確認事項等あれば。

委員：幼稚園としては大切なものと思っている。市内12園の意見をまとめてきた。

○「井原市では」のところ。とても早く園が誕生した歴史がある。歴史のこと、各小学校区に幼稚園が設置されているということを入れてもらいたい。個に応じた教育、接続のことも入れてもらったうえで、少子化というところに繋げていってほしい。

○記入者・・・父親と母親を分ける必要はあるのか。記入者を特定する必要がなくてもよいのではないか。

委員長：事務局からは

事務局：意見を聞いた後にまとめる。

委員長：記入者については？

事務局：特に意味はない。

委員：引っ越したから入園したいという問い合わせがある。井原市では、就労していないと保育園に入れないということは伝える。保護者の中には、分かっていない人もいるのでは。幼保のすみわけが分かるような一文を。

委員：事務局から園児数の傾向も教えていただいた。市内の乳児、園児数、生まれる人数を入れていただくと。

委員長：この調査の背景を明らかにするということですね。

委員：言葉をそろえた方が良い。（全体を通して。）専門用語が入っているが、できればわかりやすい言葉が良いと思う。

【p 2 問2－11】教育内容・教育方針というのがある。教育及び保育内容とか教育及び保育方針とか、全体をそろえてもらえれば。

【問3】「幼稚園保育園」と統一してほしい。

【問3－8】「先生」とした方が。

委員：保育園の場合、就労が条件ということだった。今、「保育に欠ける」ではなく「保育を必要とする」と言い方が変わっている。井原市は、基本就労していないと入園できないという位置づけなのか。

委員：仕事を探しているということも含めて保育園入園は可能。国の示しているルールに基づいて運営している。

委員長：表現を入れる時には気を付けないといけないということですね。

委員：どうして幼稚園に行かないのか、保育園なのかというところを掘り下げた方が良いと思っている。

幼稚園は3歳から、保育園は0歳から。3歳児以上で、幼稚園に通っている保護者に聞きたい。

1 入園までは自宅保育、2 保育園、3 その他

入園まで自宅保育を選んだ人（1）への質問も

○3歳児までは自宅で子育てをしたかったから

○保育園に空きがなく入園できなかったから

○保育園に通園できる要件を満たしていないため入園できなかったから

○保育園までの送迎ができないから

○保育園に通う費用が大変だから

○その他

また、途中から幼稚園を選んだ保護者への質問も入れたらどうか。

保育園から幼稚園に変わる理由を知りたい。

○幼稚園の方が幼児教育に優れていると思ったから

○幼稚園は小学校区内にあり、送迎をしなくてよいから

○同じ小学校に通う同級生が多く、入学後が安心だから

○保育園の子どもや保護者に対する対応に不満があったから

○幼稚園の預かり保育の時間で仕事に支障がないから

○通園するにあたり保育園より費用が安いから

○その他

3歳児以上で保育園に通っている家庭の保護者には、なぜ幼稚園を選ばないのかを聞きたい。

○仕事のために子どもを預けなくてはならないから

○幼稚園の開園時間や預かり保育の時間では仕事に支障が生じるから

○保育園の方が幼児教育に優れていると思ったから

○子どもが大人数の中で生活できるから

○幼稚園教諭に比べ、子どもに対する保育士の数が多いと思うから

○その他

このように聞くことで、通園している人の意識が把握でき、きめ細かくどうしてそうされているのかが分かるのではないかと考えた。

委員長：3歳以前の保育を選択した理由や動機を確認した方がよいということですね。①に対してご意見があれば。

委員：同じ土俵でアンケートを取れるのは、3歳児以上に尋ねるのは魅力的。分け方が幼・保と未就園。幼と保で分けて尋ねる方がよいのではないかとも思った。なぜ幼稚園を

選んでいるのか、なぜ保育園を選んでいるのかを知りたい。

井原市は、0・1・2歳が無償化している。保育園に入れるために仕事をしているということも聞こえてくる。それでいくなれば、0・1・2歳で入っていれば、もうそのまま通っていれば、幼稚園に変わらなくてもよいというような意見も、「その他」のところに書く人がいるかもしれない。幼稚園を統廃合に持っていくためというわけではないが、聞きたいポイントがぼけてくるとアンケートをとる意味がない。出だしのところは大切な部分。

委員長：家庭の意向を分けて深堀りするようなシートをつくったという意見だと思う。

かなり、大きな変更になるので、事務局に検討いただきたい。

事務局：業者とも相談しながら検討していきたい。

委員長：インターネットを介したアンケートなので、質問の分岐等はやりやすいのでは。一人の保護者が答える質問の量はあまり増やしたくないというのもあると思うので難しいところもあるかも。

委員長：②について事務局からお願いします。

事務局：説明

委員長：先ほどここに至る前に、委員から意見があった、わかりやすい用語というところは検討いただきたい。

委員：【問1】 「お子さんの所属」のところでは、1 市内保育園 2 市内幼稚園となっている。問1と問8では1 市内幼稚園 2 市内保育園となっており、「お子さんの所属」欄と違う順で出てくる。そろえた方がよい。

【問1-3】 市外の園でよいのでは。市外は幼保と分けて聞かないのか。

【問2-2】 職場に近い→「仕事場への通勤の利便性がよい」「通勤途中にある」といった表現に

【問2-4】 給食がある→「一年中給食が提供される」「一年中」があった方がよい

【問2-9】 保護者同士のかかわりができる→「PTA 活動や役員等の保護者の負担が少ない」「保護者が園の行事に参加できる」「参観日等が定期的に設けている」といったものも加えてよいのではないか。

【問2-13】 基本的な生活習慣を身に付けてくれる→「身に付く」か「身に付けさせてくれる」

【問2-15】 18時まで預かってもらえる→「土曜日や19時まで預かってもらえる」「18時までの預かり保育がある」

【問16】 として、「施設・設備が整っている」という項目も入れてはどうか。

委員：アンケートの「何を」が分からなかった。なぜ幼稚園の人数が少ないのかを知りたい。どうして選ばなかったのですかとした方が的確でよいのでは。今行っているところがよかったからと書くのだろうが、行かなかった理由を聞いたほうが意図としてあっていると感じている。

委員長：選んだ理由、選ばなかった理由の意図は。

事務局：なぜ幼を選んだか、なぜ保を選んだかの方が保護者としては答えやすいのだと思う。

委員：今の話で言うならば、職場に近いのは保育園の保護者、給食があるというのは、幼稚園の保護者に関係すること。幼保のことがごちゃごちゃと入りすぎていてわかりにくいのだと思う。

【問13】 については、ここだけ内容に触れているのが違和感がある。これを聞く必要性がどこまであるのか。

委員：幼保を選んだ理由は違うところにあると思う。幼稚園保護者に向けた質問、保育園

保護者に向けた質問は分けた方がよい。選んだ理由は幼保で全然変わってくると思うので一緒にするというのは答えにくいと感じる。

委員：ニーズを知るところで落としどころをつけるとのことだった。何を知りたいのかをきちんと把握するには、幼保で別になるだろう。数は丁寧な方はしっかり見てされると思うが、選択肢がたくさんありすぎると適当にしてしまう。選択肢は少ない方がよい。

委員：回答項目が多いと、大変。携帯で解いていくので、あまりたくさんだと丁寧に見えない。難しい表現だと、大変。パッとみて子どもが寝静まったところで見えるアンケート。あまり時間がかかると、回収できないものになるのでは。

委員長：幼稚園と保育園用で問2のあたりは分けた方が、選択肢も減るし答えやすいのではというところでまとめてよいか。この場で結論を出すのは難しいと思うが、保護者としては、分けた方がよいという意見。

委員：【問4】と【問13】人数のところ。保護者にこれを聞かれてもわからないと思うが。クラス何人かいいのかと聞かれても、根拠をもって印をつける人はいないのでは。

委員長：質問の意図として聞いてもよいか。

事務局：大勢の中で保育を受けたい、少人数の中で保育を受けたい、保護者の思い、いろんな考え方がある。今は、数人、多くても十数人の幼稚園がほとんど。一人一人に目が行くきめ細かい保育というのは当然少人数の方が利点としてはあるのかなと考える。ただ、保護者の意向としてやっぱりそうではない保護者の方が多いのかどうかというところを確認したいというところはある。この設問をなくすと、1園の規模がどれくらいがよいのかというところがないと、検討の際把握しづらいのではとも思う。

委員：少人数は何を基準に少人数としているのか。

事務局：何人が少人数というのは、保護者による。何人が少人数なのかは難しい。

委員：子どもに対する配置基準がある。井原は独自の配置基準でするのか。それができないなら、少人数でというのは不可能。多くなった時、設置基準を変えられなかったら少人数にはならない。少人数を希望すると来られる人が言われても不可能だと思うが。施設の規模ありき、ではなく、子どもに対して（大人が）何人でやっているかが少人数の定義だと思う。こう聞くほうがナンセンスだと思う。

事務局：結果がどうなるか。5～10人のニーズがほぼすべてであれば今後の指標になると思う。保護者のニーズという意味で、分け方は考えていく余地がある。

委員：規模がどうかではなく、マンツーマンで行っている保育はどうなのかと思う。職員の配置で考えるべき。

委員：文章で聞いてもよいと思う。少人数10人までが望ましいとか、大人数での保育が望ましいとか。

委員長：市として知りたいことは、適切な人数を把握することが根拠となると思うところだろうが、今の委員の意見はどうでしょうか。

事務局：検討させていただきます。

委員：【問9】について選択肢を変えてみた。

- 園の雰囲気
- 自宅に近い
- 職場に近い
- 通勤に便利
- 開園時間が長い（開園時間・閉園時間）
- 金銭的負担が少ない
- 給食があり、アレルギー児にも対応している
- 土日も預かってもらえる

- 3歳未満児にも対応している
- 近所の知り合いの子どもが通園している
- 様々な行事や保育・教育内容が充実している
- 園の職員の態度や対応が安心できる
- 園の職員と保護者や保護者同士の関係を大事にしている
- 子どもの人数に対して職員の人数が適切である
- 保育・教育内容が我が子に合っている
- 園舎や遊具、園庭等の設備が充実している
- 小学校に進学した際、戸惑いが少なくなるように生活を工夫している
- 子どもが将来において一人でも生き抜く力を身に付けてもらえる
- 社会のルールや人間関係、基本的な生活習慣を身に付けてくれる
- 子どもに関する不安や疑問を気軽に相談できる雰囲気や体制が整っている
- その他

委員：【問4】について 今保育園は人数が多い。職員の数はそろっている。でも大人数が一つの部屋にいる。適正な集団を保護者がニーズとして選んだら、今多い保育園にも補いができるのであれば、この質問の意味があると思う。ただ、「幼稚園が、少人数で困難」という裏付けが取りたいだけなら意味がない。こういうことを聞くのであれば、現場の職員が理想とする人数が出たらよいのでは。保護者のニーズとして把握すればよいが、職員のニーズを把握する必要がある。子どもを真ん中にして、子どもが学びやすい状況下をどうつくるかという検討をここでするのがいいのかなと思う。人数が少なく、集団として成り立たないという裏付けを取りたいだけなら意味がない。

委員長：市の方で検討いただきたい。

委員：【問10】上 四角囲みは削除でよいのでは。【問10】ずれている。

③について

事務局：説明

委員：【問5】幼稚園のデータを見たのではわからないのか。

事務局：わからないのではないが、流動的である。

委員長：質問を減らすという意味では、検討いただければ。

委員：預かり保育のニーズはいるのか。幼稚園が市内で預かりをしていることは定着している。預かりの云々は。

事務局：幼保一体になることを見越してというのもあるし、幼稚園を選ぶ保護者でも仕事をされている人もいる。幼稚園の預かり保育のサービスはニーズがあるものだと思うため、預かり保育に対する保護者の意識を知っておいた方がよいと考えている。

委員長：このあたりも含めてご検討いただきたい。

委員：【問6】「長期休業中の給食の提供」を入れてほしい。

【問12】にも「給食または業者による配達弁当」とか、「長期休業中の給食の提供」を選択肢に入れてほしい。

【問11】時間表記をそろえて。必要があるときのみ利用したいも、入れてよいのでは。

【問11】選択肢に、「必要がある時のみ利用したい」を入れてもよいのでは。

④について

事務局：説明

委員：前回の学区制の話は絡めた方がよいのでは。事情が変わったことはわからなくはな

いが。学区制は残そうとなった。統廃合をしたいのなら、統廃合するから、と言ってしまったらどうか。

委員長：今の保護者にそこを言った上で聞くのか、言わずに聞くのか。回答傾向に影響がないなら、言わなくてもいいと思うが。5年前との整合性という意味では、ご検討いただければ。

委員：【問7】と【問14】の選択肢の内容を一致させた方がよいのでは。【問14】標記の仕方の方が分かりやすい。

加えて、「スクールバスがあれば通う」とか、「統廃合されたとして自分で通うことができる」とか「できない」とか。

⑤について

事務局：説明

委員：【問15】に追加を入れてほしい。

検討するにあたり、というところをお願いしたい。「不必要な施設の廃止」と、「市内民間保育園の活用」というのをに入れてほしい。民間保育園がたくさんあるのだからそれを活用していただきたい。【問16】は、経営圧迫と保育の質の低下というのをに入れていただきたい。民間の方から人が流れるということがあったら、死活問題。

委員長：保護者の意見を聞いてみたいということですね。全体のバランスをみて市の方で検討いただきたい。

委員：【問16】 就労状況に関係なくとある。そういう施設を作るという意味か。

委員：国の方針が、就労に関係なく通える園にする。近い将来そうなりますよね。それを入れてある。

委員：民間施設の経営圧迫はそれこそ危機的状況。保護者からすれば、見えないクモをつかむ話だと思う。預ける保護者からすると見えない。だとすると、「市としてはこういう風に考えているんだけど」という聞き方にしてほしい。

委員長：実は、私もこれが分かりにくい質問だと思っている。なぜこれを聞く必要があるのかを保護者に分かりやすく伝える質問の仕方を。

多数の項目をどう整理するか。オンラインの方からご発言いただければ。

業者：事務局と協議して整えていきたいと思っている。

委員：1ページ目にある、一番下のお子さんについてとすると、幼稚園のほしいデータがなくなってしまう可能性があると思った。3歳児以上の幼と保のデータは貴重なものになると思う。幼保を分けた方がいいのはその通りだと思った。ぼやけてしまうので。3ページ、5ページの最後に以上です。とある。

委員：問16は、芳井、美星のことを聞いているのかなととらえた。

委員：期待することが3つ不安要素が5つ。期待することの項目がもう少しあれば。アンケートを見たら不安になる。もうちょっと期待を増やしていただきたい。

委員長：事務局にはたくさんの注文があるが、よろしくお願いいたします。

(2) アンケートのスケジュールについて

事務局：たくさんの貴重な意見をありがとうございました。

(説明)

委員長：質問はありますか。全体に関していかがでしょうか。

委員：我々は死活問題が一つある。保育施設の在り方だが、主催が教育委員会なので、幼稚園のことになると思う。行政は、芳井、美星のような僻地のところはなくさないようにされると思う。民間保育園は、いろいろなところに散らばっている。施設の在り方で考えるなら、民間保育園の活用で考えてほしい。市から、幼稚園の籍を賄ってくれるように、私立保育園でこども園にしてくれるところがありませんか、と

というようなお尋ねがあったら、できると思う。もっと民間の保育園の活用も視野に入れて考えていただければと思う。

答申書ができてからでは遅いので、提案をさせていただく。

委員長：ありがとうございます。審議を終わらせていただきます。事務局にお返しします。

(2) 保護者アンケートのスケジュールについて 説明

(3) その他 なし

3 その他

次回検討委員会は令和7年5月に予定している。

4 閉 会

副委員長：一歩進みましたでしょうか。進んでいけばいいなと思います。

子どもたちにとってクリスマスは大好きな1日。子どもたちには見えないものも感じられる、見えないものも信じられる感性を大人になっても持ち続けてほしいと思っている。皆さんはどうでしょうか。